

平成29年度日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立大久保小学校 教諭 小出 順子

- 1 派遣期日 平成29年8月3日（木）
- 2 研修先 学校名（会場名） 東京学芸大学附属竹早小学校
所在地 東京都文京区小石川4-2-1
主催 児童造形教育研究会
後援 公益財団法人 教育美術振興会
<http://www.GeoCities.jp/jizouken/taikaiannai39.htm>

- 3 研修内容 第41回児童造形教育研究会（夏の研修大会）
大会テーマ 子どもとつくる図工の学び ～学びを深める造形的なやりとり～

（1）全体会「学びを深める造形的なやりとり」～授業VTRを通して～

新学習指導要領における授業改善の視点「主体的・対話的で深い学び」は、本研究会のテーマと関連している。「対話」という言葉は「やりとり」と親和性が高い。考えを作品にしていくなかで、自分自身や友だちとのやりとりが行われる。色や形による会話や行為そのもののやりとりによって多様性が生まれ、また、考えを言葉で伝えることで、自分の考えが整理される。

（2）実技研修（A～Eコースのうち、Cコースを選択実施した。）

Cコース 中学年	①絵『マイキャラクターたちの楽しい町』 マイキャラクターを作ることから始める。友だちと関わり合いながら「どんな家にしようか」「街に出かけて何をしようか」考え、楽しく描く。
	②工作『紙っておもしろい！？』 紙があったら何ができるのか。どんなことができるのか。子どもの思いから、教師の立場から、いろいろな可能性を考えていく。

- ①実技研修 絵『マイキャラクターたちの楽しい町』（竹早小学校の児童と一緒に実施）
活動のねらいは3つ。○みんなでキャラクターが住む町を考えて表現することを楽しむ。
○キャラクターや町などを想像力豊かに発想する。
○水性カラーペン、クレヨン・パスなどの表し方を工夫する。

<題材の展開と指導のポイント>

- ア 自分だけのキャラクターを考える。
 - ・自分の好きなものを元に考えると発想しやすい。水性カラーペンなどでカードに描く。キャラクターの特徴、好きなことや物、得意なこと、趣味などをカードに記入する。
 - ・グループでマイキャラクターを紹介し合い、お互いのよさや面白さを話し合う。次のみんなで表現する活動での関わりも活発になり、発想が広がるとともに楽しい活動になる。
 - ・マイキャラクターを決めておくと、他教科も含む様々な学習で活用することができる。
 - イ 3～4人のグループで大きな紙にそれぞれのキャラクターの家を描く。
 - ・いきなり町を描くと何から描くのか悩むことが多い。キャラクターの家を描くことから始めた方が、町を描くことにつながりやすくなる。
 - ウ 家ができたなら、グループのメンバーがお互いに関わり合いながら町を表現していく。
 - ・家から道を描き、キャラクターがお出かけする。道の途中に店や公園、川や橋、車や電車など思い付いたことを次々と描く。自然と子どもたちは、「ねえ、ここに遊園地をつくってみんなで遊ぼう。」などと話し合いながら発想を広げ、楽しく表現し出す。
 - ・町の中にキャラクターを何度描いてもよい。様々なことをしているキャラクターを描くことは、楽しい表現活動になる。家族を描いてもよい
- ひとりでキャラクターの町を表現すると、自分の思いのままに描けるよさがあるが、発想や表現の幅が広がらなくなることも考えられる。みんなで表現した場合は、お互いの

発想や表現が刺激し合って、新たな展開が期待できる。一人では思いつかない発想が生まれたり、形や色の表現に新たな発見が生まれたりする。また認め合いや協力が自然と生まれる。子どもたちは、一緒に表現する中で、言葉によるやりとりだけでなく、目の前に表現される形や色のやりとりによって、新たなものを獲得する。



②実技研修会 工作『紙っておもしろい！？』（研修会参加者で実施）

身近な紙を使う。（コピー用紙、色画用紙、新聞紙やちらし、ティッシュペーパーなど。）
今回はコピー用紙を使用。

＜題材の展開と指導のポイント＞

ア 用意した紙で、自由に作りたいものを形作る。（創造力を発揮する。）

- ・想像力と創造力を働かせて、感じたことや考えたことを自分らしく素直に表現する。
- ・表現が単一にならないように、表現の仕方やテーマを絞り込み過ぎない。
- ・異質なものが排除されるような状況は作らない。

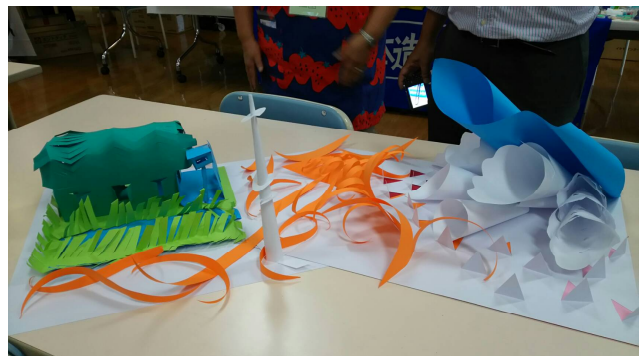
イ 鑑賞し合う。（関わり合う。）（いろいろな表現を認め合う。）（発見・気づきの共有。）

- ・自分の表現とは異なる表現をお互いに鑑賞し合う時間や場を設定する。
- ・いろいろな見方や考え方、感じ方があることに気付かせる。（気付ける。）
- ・いろいろな表現があっていいのだと理解する。（理解できる。）

ウ グループになって、一人一人の作品を合わせて一つにする。（学びを深める。）

- ・グループになって、何か一緒に作れないか考える中で、関わり合いながらいろいろなことを考え学ぶ。学びを深める造形的なやりとりは、このようなところにある。

エ 振り返りカードにまとめる。



4 感想

本大会の実技研修の5コースは、すべて「造形遊び」の内容だった。

全体会や実技研修の中で何度も感じたことは、「造形遊び」は、言語表現がほとんどなくても自分を表現する喜びを得ることができる、ということだ。また、自由に何度でも取り組むことができるという条件の中でなら、年齢に関係なく、ものを作り出す喜びを存分に感じることができる。自分とやりとりをして試行錯誤しながら作るとは、自分を深く見つめることに繋がる。また、友だちとやりとりをして友だちと関わり合うことは、表現の多様性を生むとともに、相手を認めたり自分を認めてもらったりする機会となる。このことは、子どもたちの発達にきわめて重要なことだと感じた。今までの私は、「造形遊び」は評価が難しいという思いから、題材として選択するときに躊躇したり迷ったりすることが多かった。しかし今後は、「造形遊び」の題材に積極的に取り組んでいこうと思う。